



出前養成講座

夕鶴の里自主事業実行委員会では毎年、漆山小学校に出向き、四・五年生を対象に出前語り部養成講座を行っています。今年度は十二月十二日に第一回目の出前語り部養成講座が漆山小学校で行われました。

最初に行われた全体会では、民話会ゆうづる会長の多勢久美子さんよりごあいさつを頂き、そのあとに去年語りの勉強をした五年生の中から小川駿汰くんが代表で語りを披露しました。

全体会終了後、班ごと各教

夕鶴の里資料館報

平成25年12月20日

第36号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800



室にわかれ、語りの練習を開始しました。生徒たちは、積極的に講師の先生へ質問をしたり、テキストを見ながら一生懸命練習に励んでいました。

大好評にて

オリジナルマフラー展

終了!!

染め織りの体験学習（まゆの里事業・川合ひさ子会長）で制作したオリジナルマフラー展が十二月一日（日）から二十日（金）まで開催された。この事業は山形県蚕糸業会様より支援を頂いて開催した事業であり、今年で二年目。昨年は、オリジナルテーブルクロスを制作したが、今年はグレードアップし、オリジナルマフラーを制作した。糸もたまねぎや緑茶、紅茶で染めたものを使用し、ぬくもり色たつぷりのオリジナルマフラーが完成した。受講生二十五名のオリジナルマフラーは心温まる、個性あふれたマフラーばかりで、来館者からは歓喜の声が上がっていた。



きれいに
なったよ〜!

十二月二十六日（木）に、毎年恒例、調理室の大掃除を行いました。水場やコンロを重点的に、職員みんなで取り組みました。2時間程かかりましたが、一年間の感謝の気持ちを込めて磨きました！



来年からも、ピカピカの状態のまま使用していけたらなと思っております。

名優「山本安英」夕鶴と
木下順二先生

山形県南陽市漆山にある珍蔵寺には江戸時代から「鶴の恩返し」の話が伝承されている。

第二次世界大戦の敗戦で国民の気力が劣っていた時代に庶民の間に伝えられた劇に、木下順二先生作の「夕鶴」が書かれ、大変な評判になった。この話だけは南陽市漆山の人で知らない人がいない程だったから、隣の珍蔵寺さんと相談して、生涯教育の施設を作り、「夕鶴」と名付けることにして、木下先生に相談したところ、すでに佐渡にその名を許可してしまっている、呉れられぬと言われたが、当時の市長が「何としても「夕鶴」以外ではうまくない」と、木下先生には逆に「では勝手に使います」と申し出て、「夕鶴の里」で民話をお客さんに語り聞かせることとした。

げよう。秋田に「わらび座」があるが、そこと三ヶ所だけに「夕鶴」の名をもらったのだった。

その時に、木下さんが柳田国男から呼ばれて行ってみると、「昔話と伝説と世間話は基本的に異なるのに、お前さんの戯曲はそれがごっちゃになっている」と叱られたという。

木下さんは、「柳田先生は学問として民俗学の分野で、そうおっしゃるが、私のねらいは文学、特に庶民文学としてそれを劇にする仕事をしているので、分野違いである」と、柳田先生の説に反対したと言ったことを教えてくださった。また、木下先生は「民話」という語彙が使われたが、民俗学では「口承文芸」が専らであった。やがて、「民話」が一般的になって今日では常識になっている。ヨーロッパでは民間説話を短めて、「民話」としたのであった。今は私にとつて、どちらも正しいと思っていることである。

夕鶴の里特別研究員

武田正



戯曲「夕鶴」

山本安英さん



鶴布山珍蔵寺

漆山公民館が移転しました!!

今まで夕鶴の里内にありました漆山公民館が、十二月十三日(金)より漆山地区ふれあい交流センターとして(元J A 漆山支店)に移転いたしましたので、お間違いないようよろしくお願い申し上げます。

なお、電話・FAX番号は変更ありません。

漆山公民館
(電話・FAX)
四七―二五一五



「昔のあそび」

ベッコウ館を作って食べよう

日時：二月二十五日(土)

午前十時

持ち物：エプロン・三角巾・タオル

参加費：二〇〇円

定員：約十五人(要予約)

◇皆で来てね〜!!

〜お願い〜



夕鶴の里駐車場への無断駐車は、除雪の妨げになりますのでご遠慮ください。駐車される方は、必ず夕鶴の里までご連絡ください。

TEL 47-5800

年末年始休館のお知らせ

12月28日(土)

1月 5日(日)

1月 6日(月) 休館日

年末年始休館



来年もよろしく
お願いいたします